

教育、民生常任委員会記録

招集年月日	平成 28 年 5 月 23 日 (月)
招集の場所	議員控室
開会	午後 1 時 4 0 分
出席者	委員長 福田 淑子 副委員長 吉田 二郎 委員 柳田 政喜 委員 大橋 昭太郎 委員 橋本 四郎 委員 佐野 善弘 委員 平吹 俊雄
欠席者	なし
職務のため出席した者の職氏名	係長 高橋 美樹
協議事項	・視察のまとめ
その他	なし
閉会	午後 2 時 4 5 分

2号様式 協議の経過

	開会 午後1時40分
福田委員長	<p>時間少し早いんですけども、引き続き常任委員会をおこないます。本日は大変、午前中お疲れさまでした。</p> <p>全員出席ですので、会議は成立いたしております。</p> <p>午前中は、大崎クリーンセンターまで行って、いろいろお話を聞いてきました。</p> <p>今日の午前中の視察のまとめを、皆さんでおこないたいと思います。意見があればお話をいただければと思います。何かありましたら、感じたことでもいいし、昼休みにはいろいろお話ししたんですけども。</p> <p>リサイクル率を、目標の17.2から25%を目標にというのは確認したんですけども、全国的に見るとそれでもリサイクル率、女川町は宮城県で一番で35.07%、加美町は24.11%ですけども。ま、そういう目標を持っているというのは聞きましたけれど。</p> <p>なぜ、25%なのかなということについては、あまり掘り下げては、聞けば失礼だと思うから聞いてこなかったんですけど。</p> <p>はい、柳田委員。</p>
柳田委員	<p>今日、いろいろお話聞いてきたんですけども、まず私が気になったのが、同僚の委員の方々の話が出た中で、買い物袋と言うんですか、その辺の絡みで質問した際に、震災の頃からモラルが低下して、ごみの混入が多いという件が一点ですね。</p> <p>あと実際、買い物袋というかレジ袋に関しても、一時期は店のほうも全面的に有料化だったりしているんですけども、今、正直言って無料で対応しているところも、だいぶふえてきているんですよ。特にホームセンター関係はすでに無料ですし、それに一時期どこの業者も取り組んだ過剰包装を止めましょうというやつも、いつの間にか消えてなくなってきていると。</p> <p>それらも再度徹底しないといけない部分が目立つのかなと。モラル、徹底。ま、それがやっぱり分別する立場の人もしくは商品をつくる人、両方にそれが感じるかなと思うんですけど。</p> <p>ある程度その部分をもう一度徹底することが、まず減量化の第一歩になるんじゃないかなと思いますけれど。モラル、プラス今までやっていた当たり前のことをですね、再度ね。</p>
福田委員長	<p>一時期はかなりみんなで言ったから、それなりに努力してやったんでしょうけどもね。</p>
柳田委員	<p>特に業者さんの過剰包装というの、昔に戻っているんだそうですね。</p>
福田委員長	<p>ほかにありませんか。</p> <p>はい、大橋委員。</p>
大橋委員	<p>広域が中心になって各町との担当者会議を開いているようですけども、</p>

	<p>やっぱりこの、協議を積み重ねるといふその、まず当面は 26%のリサイクル率なり何なりといふのを達成するために、努力をしてもらわないとならないんだと思うけどね。</p> <p>それが意識としては、町民の人たちの意識が足らなければできないことではないかもしれないんだけど、まずこういう目標の中で、例えば施設内なんかの、あるいは最終処分場だの、現状というものをもっと訴えていく啓蒙活動の重要性が、それが重要じゃないかというふうに考えました。</p> <p>それから、その各町村の負担割合の部分といふのもあるわけだから、それもごみの量によって決まってくる。そういったようなことや、そういう部分を、町民の人たちの手元に知らせることが、もしかしたら、減量化の取り組みの第一歩かなというふうに感じました。</p>
福田委員長	町民への啓蒙だね。
大橋委員	その内容的なものも含めてね。
福田委員長	ほかには、いかがですか。 今日、視察してのね。
橋本委員	<p>これ今見てたら、びっくりしたんですよ。前回、話し合ったとき、私は生ごみの扱いはどうしてますかという、ごみ出たらのやりくりみたいな、それは大橋さんに聞いたけれども。そういうことで、台所から出るごみというのは 15%だって、そして紙包むのもこれが 45%、これは何をもって調べているんでしょう。同じ袋に入ってたやつを分けて調べてるんでないのか。大崎広域で調べる場合に、台所用のごみは 15%になりません、そういうの。紙となるのが 46%あるという、どういう分別をして調べたのか、機械でやるのに。</p> <p>こういうふうに調べてね、これ見ていたらあそこで質問するかなと思ってたんです。これを見た人は、分かると思うんだけどもね。それ聞かなかったのか。</p>
大橋委員	3つの処分場の合わせたやつだよ、この間やった。
橋本委員	ただ、これは燃えるごみですから、一緒になってくるんでしょ、それ以外除いて。だからその、今、ごみ出すことできるのは、袋に入れないと出せないわけです、燃えるごみとして。その燃えるごみの中に台所用と紙袋が一緒に入っていたらどうやって分別したのか。この分別の仕方、しかも資料できればいいということではなくて、どうやって調べたか、なぜ分かったかということと言わなきゃね、この資料は当てにならないんだなと。
福田委員長	はい、休憩します。
	<p>休憩 午後 1 時 5 0 分</p> <p>再開 午後 1 時 5 7 分</p>
福田委員長	<p>再開いたします。</p> <p>委員会は全員出席ですので、成立いたしております。</p> <p>ただ今、大崎リサイクルセンターのほうに電話をして、ごみ組成成分分</p>

	析結果についてのご説明をいただきましたので、事務局からお願いをいたします。
高橋係長	それでは、分析の方法ですけれども、専門のこういった分析をする機関のほうに頼んで分析してもらっているということで、例えば、みんなの家から集まった燃えるごみ、袋に入ってきますよね。それを何キ口分というふうに指示されるそうなんですけれども、抽出して何個かを取って、それを専門の機関に持って行って分析してもらうので、ですから持ち込んだごみの、調査のために持っていったごみの成分ということなんですというお話でした。
福田委員長	橋本委員。
橋本委員	要するに、ごみを分けてるのではなくて、収集した何カ月間、何日間、何個分か分析なんですね。
高橋係長	そうなんです。
橋本委員	正確ではないということなんですね。
高橋係長	そうです。全部をあけてみて、割合を分析しているわけではなくてということですね。
大橋委員	それは定期的にとということですか。
高橋係長	定期的ですね。年に4回、見積もり取ってその業者さんを決めて頼むという話だったんですけれども。
大橋委員	3焼却場の平均ですという言い方しましたよね。
高橋係長	言っていましたね、はい。 その持っていくごみを3カ所から集めてるんですね。
福田委員長	ということでした。
橋本委員	その程度の調査で出た数字がそれだと思っていればいいのであって、これで決定しては駄目だと。
福田委員長	大体、こういう傾向だと思う。
橋本委員	大体の傾向で、そのときの傾向であって。
福田委員長	それで3R運動の、一つにモデル地区として紙と布類、紙に対してもやりましょうというふうに決めただと思うんですけど。
福田委員長	これね、委員長ね、仙台だったらこういう傾向があるよ。今、仙台市でこれ問題になっているんだから。仙台市からこっち側に来て、ある程度ごみの分別が徹底してる場所だったら、雑誌あるいはまとまった紙なりを容認して入れるなんていうのは、ありえるはずがない。だからここにも、アパートに入りながら住民登録してない人がいるわけだ。そういう人がごみ出したら、分かんないから、一人暮らしだから、何でもかんでも入れてしまうということに、やらなければこういうことになる。 ただ、一般の家庭で、紙のまとまった分まで40種類も投げるなんてのは成り立たない。やる自体がおかしいんです。だから常識的には考えられ

	<p>ない。そういう仙台での、仙台も新しい人が入ってきてからこういうことがおこるようになって、それではだめだから今、取り組んでいるけれども、そういう特殊な事情でなければ、こういうような結果は出てこないだろうなという感じがする。</p>
福田委員長	<p>ほかにありませんか。 佐野委員ありませんか、何か。</p>
佐野委員	<p>そうですね、ま、こういう実態は実態として、今後、広域がこういうふうな取り組みをしているんですけれども、ま、果たしてこれで、ごみとかですね、リサイクルがふえるのかどうか、その辺を常任委員会で検討して、もともと進んでいるところがあるんじゃないかなとは思ってますけれども、その辺の内容等のことも参考にしながら、いろいろ提言していったらいいんじゃないかなと思ってますけども。</p>
福田委員長	<p>平吹委員はどうでしょう。</p>
平吹委員	<p>やっぱり、紙マークの付いていない雑紙が、これからのリサイクルになっていくと。結構、私も一緒に、広告なんか結構捨てている人が多いなという思いしますんで。やはり、その雑紙の対応、リサイクルという目標を広く、広めたらいいのかなと思ってます。</p>
福田委員長	<p>吉田委員。</p>
吉田副委員長	<p>今日視察に行ってきました、3Rの大切、それから可燃ごみの出し方も、特に生ごみなんかそのとおりですけど。今日の印象というのかな、雑紙のモデル地区を作ってこれから取り組みますというような動きが始まったと、何で今ごろなんだと、私も。そしてモデル地区まで作って、だったら最初から、全県というか、県内全町あげてみんな取り組みするようにしても良かったのかなと。</p> <p>これどこで評価して、あそこで言えなかったけれども、良くなったからそれでは進めましょうとか、ちょっとうまくなくなったから、これはやっぱり駄目だとか、十分な判断で決められてくるのかと、そういうのもいろいろもっと、もっとあると思うんですけども。</p> <p>出す人のモラル、まずさっきも出たけれども、基なんだけれども、その辺ちょっと引っ掛かったというか、勉強させられてきましたね。</p>
福田委員長	<p>はい、橋本委員。</p>
橋本委員	<p>吉田さんね、新町民生活運動というのが始まったのが平成の初め、昭和の終わりころです。要するに経済が低成長のときに新町民生活運動と言って、余計な包みをしない、あるいは物、金銭のやり取りもできれば少なくしてやろうということで、経済の提唱してやってきたの。いつの間にかそれ無くなってきたの。それで過剰整美の問題でできたの、ここ10年ぐらいでしょ。そのときに、本来は取り戻せばよかったんだけど、その意欲を持った者が大崎広域の代議員の中にいなかったことなんだ、仕方ない。それが、だんだんふえてきて今になってみると、今度は資源の問題、</p>

	<p>今の森林の倒木問題なんか出てきて、それについて、作るほうが再利用のほうより安い、あるいは費用が掛からない。こういうことが出てきたんです。幸和という会社があるんです。トレセンの南側です。あれは、発砲スチロールありますね、発砲スチロールどうするかというと魚の発砲スチロール集めてきて溶かして中国に送って再利用した。だから、さっき外国に輸入してなぜかという外国の労働賃金は安いからできたんで、そういうふう外国と取り引きしながらやってきた会社も日本にいっぱいあるのは、これは仕方がない。ただ、再利用することによって、地球の環境を守ることができるなら仕方がないだろうなと私は感じている。</p> <p>時代に応じた対策を取らなくちゃいけないけれども、大崎広域の場合、今言ったように、過剰包装するようになったその体制を的確に判断しながら、どういう過剰な包み紙かというよりも別な、新聞だの違った形をしなくちゃいけないから、そういうほうでやるんでなくて。</p> <p>私、だから御祝儀なんかで貰った袋はみなそれ利用して、段ボールの切れ端入れたり、それから貰ったお菓子とか袋に入れたり、ティッシュペーパーの箱入れたりしておくて。</p> <p>ただ私の場合には、出さない、ごみ置き場に。なぜかと言うと燃えるごみの扱いされるから。だから私は、中組でリサイクル運動をして37年になるけれど、私のほうのリサイクルを見にお出てください、金になります。1キロ8円から12円になります。こういうことでやっているんですけど。</p> <p>それはやっぱり、地域の行政区長含めた人たちが中心になってやらなきゃ徹底しません。私より考えている。だから過剰包装が何でできたかという問題も教わったことは教わったけれども、今でも今からでもやるという気持ち、そういうのでいいかと私は思っている。</p> <p>以上です。</p>
<p>福田委員長</p>	<p>ほかにありませんか。</p> <p>分別の種類を決めるのも大崎広域行政なんですよ。もう少し、町でできることは率先してやっていかなきゃいけないと思うんですけども、大崎広域でももう少し音頭を取って。なぜ色麻町と加美町がモデル地区でわざわざしなくちゃならないか。これ全町に即、実践していいんじゃないかなと思うんですけども。</p> <p>それと、小型家電のリサイクルが7月1日からスタートするというのはあらためて分かっているんですけども。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>ただね、今言ったのと、大崎広域の中でも話があったと思うけど、私のほうから出ている委員がどういう受け止めをして、私たちに伝えてきたかというのが問題になってくるんですよ。</p> <p>だから山岸議員とかね、どういう論議があったんだということを聞く必要はあると思う。報告がないでしょ、全く。私、資料見ようかと思ったん</p>

	<p>だけでも、資料も会議録もないから事務局長に知らないかと言ったら、「ああ、ごめんなさい」というので、その資料すらはっきり言えば簡単に見ることができない。大崎広域の組合がどういうことを論議したか、どういう話をしたかというのを、我々が見れる体制にしておくべきだと思うんです。今回できれば呼んで、この二人から何でもこういうふうになったのかと聞く必要が私はあるんだろうなと思って。そんなこともあって言いました、二人に。何で俺のがごみが多いんだと、加美町のこと含めて出している量のこと比較表出してって、そしたら1週間ぐらいで出してもらったことがあります、今から1年以上前です。</p>
福田委員長	<p>今、橋本委員から大崎広域の美里町から行っている議員に聞く必要あるという話があったんですけども、いかがですか。</p>
大橋委員	<p>議論になったかどうかを聞いてもいいかもしれないけれども。まず、議題として広域議会の中であがっているか提案されているのかどうか。なんか、今日の説明を聞いていると疑問だなということを感じたけれどもね。</p>
福田委員長	<p>柳田委員。</p>
柳田委員	<p>今度、新しくやる雑紙だったり小型家電に関しても、ある程度は議題になっている部分があるのかなと思いますけれども。 ただ小型家電が、もともとこれ、ごみの減量化には直接つながるものじゃないと思いますので。</p>
福田委員長	<p>はい、橋本委員。</p>
橋本委員	<p>柳田君のはそれは聞くしかないけれども、ただ加美町とかほかの町の減量がこちらよりも進んでいるか、なぜ、どういう形で減量できたのかというのは、大崎広域の中で話を聞こうと思うんです。こちらの議員も行ってるなら、なぜこうなっているか、これは役場の担当職員と同じに、地域を代表して行っている人たちが、その場で調べるのが当たり前じゃないですか。</p>
柳田委員	<p>ただ私も、前にも委員会でも言いましたけれども、同じように、そっちのほうが何で進んでいるのかを調べたほうがいいですよというのは言いましたよね。 とにかく、そのところは調べたほうがいいですよ。身近なところで進んでいるのがあるわけですから。 ただ、本当に町単独でできることは、いいですか。</p>
福田委員長	<p>はい、どうぞ。</p>
柳田委員	<p>正直言って、今日聞いた感じでは、町単独でやってそれを減量化につなげるというのはなかなか難しいのかなと感じてきたんですね、受け入れ先の問題があるんで。 ただ、今できることと言ったら本当、雑紙くらいなのかなと。あとは、きっちり分別されていないものを皆さんに意識付けをして、もしくはその辺の部分を抑えるしかないのかなと。</p>

福田委員長	雑紙については、色麻町と加美町ではこの袋を使いながらやっていって るし、美里町でこれで。
柳田委員	ただモデル地区として始まっただけですから、ここ自体が多分うちの町 で使う部分がないと思うんですね。
福田委員長	はい、橋本委員。
橋本委員	<p>ごみのその減量化問題とか分別収集というのは、今から確か二十八、九 年前に小牛田地域で一つの課題ができたんですよ。</p> <p>それで、町の中には条例、規則とあとその、まさしく三つありますよね。 町がごみの出し方を規定するあるいは指導する、確か三つあると思うん ですけども。今日も下の条例の資料見たけれども見つからなくて、あとか ら担当課に行ってきたけれども。</p> <p>こうなってきたこと、何で、担当課がもっと積極的に、この町のごみ はほかの市町村からいっても多く出てますよ、駄目ですよ、費用掛かりま すよということをしないかということが残念なの。もちろん、出席してい る議員もそうですけれども、担当課がこの問題について一番関心あるわけ だから。こういうわけで、ほかの町にも、ごみの出す量が多いから何とか 考えないとなりませんね、負担も掛かりますという対策を取る。それが三 つの条例、規則の中にその場合の扱い方が確か書いてあるはずなんで、私 は、担当課のほうから、ごみの分別収集およびごみの出し方についての定 めである規則の、それをまず取り寄せること必要なのかなと。</p> <p>それから担当者になぜこんにちまでこうしてきたのか、対処しなかつた のか、どう対処してきたか、その辺の話を聞いて、対策を練るべきでない かなという感じです。</p>
福田委員長	前回の4月13日で、ごみ減量化の本町の現状については一応、担当課 にお話をお聞きしたんですけども、それを今日の視察を踏まえて、また さらに聞くということですか。
橋本委員	あのとき、具体的に何をしたらかと説明しましたか。
柳田委員	まあちょっと聞きましたけどもね。でも2時間はくだらなかつたと思う んですよ。
橋本委員	具体的に、こういう減量化については国で決まってる。
柳田委員	踏み込んでまでは聞いてませんので、ただどうしたら、ざっくばらん には聞いているんですよ。どうしたら減らせますかねみたいな話。
橋本委員	啓発の方法。指導をしてきているか。減らす方法を町民に。
柳田委員	だから、うちらがざっくばらんな質問しかしてないですから、職員も ざっくばらんな回答しかしてないわけですから。今までこのほかにどうい う質問してきたか、なんでこうなってんだと、ここまではうちらもつま んでないですから。
橋本委員	ごめん、私が聞かなかつたから、耳が遠くて。その担当のほうのが聞こ えなかつたから、聞かなかつたことによって、私はそういう気持ちを持っ

	ている。
福田委員長	もう一度お話を聞きますか。
橋本委員	できれば、私は聞きたいと思います。
福田委員長	今日、大崎のほうを視察して、その結果を受けてまたお聞きしますか。
柳田委員	いやまだ現調まで行って、いろんな意見をもっとこちらで練ってからでもいいんじゃないですか。
福田委員長	じゃ、もう少し調べてからということでもよろしいですか。
柳田委員	毎回、何かするために呼んでたんでは、職員の人たち大変ですよ。
福田委員長	これから、じゃ、どうしようか。もう大体の現状は、このあいだ聞いて、今日も聞いてきたんですけども。こう前向きに考えて、委員会としてこういうものをこう提言していこうという、みんなの頭には出てきたと思うので、それに向かって検討していったほうが。 はい、大橋委員。
大橋委員	一つはその、広域も担当者会議を何回もやっているという。それで広域の議員に聞くよりは、担当者がね、そういったことで減量化に向けて、どういう話合いが各町の担当者と広域の中で交わされたかというほうが重要な、議会に提案するものを協議してきたのであれば、それはそっちのほうが重要でないかなという気はするのね。今日聞いてきたこの内容を、その担当者会議の中では、どういうふうに議論されてきたのかというのが重要なことだと思うんだけどね。
福田委員長	それに向けてどのようにしてきたか。
大橋委員	減量化に向かってさ。 それがすぐにという意味じゃないよ、それはやっぱり重要じゃないかという。
柳田委員	ま、それにも、もう二、三回はして、それを練ってからのあとですよ。
福田委員長	今、話されたように、大崎広域ではね、担当者会議をしてきたという話をされましたので。
柳田委員	所管事務調査をおこなって。
福田委員長	はい、橋本委員。
橋本委員	これは 27 年度、当時 26 年度の部類もあると思うんですけど、まず 27 年度とします。そしたらこの表ができたなら、例えばこの各市町村の担当者は、使用後のごみよりも紙とか布のごみが多く出ているんですよと、各家庭に、これを制限するように、出さないように、再利用の方向に回すように努力されていくことだけは、町民に対する伝達が必要でしょと、担当者としては。それをすべきなの。
柳田委員	しているんじゃない
橋本委員	それをすべきなの。
柳田委員	いやしているんじゃないですか。

橋本委員	何で知りました。分からないから、出てないから言うんだ。
柳田委員	まるっきりしてないとは、言い切れないでしょ。
福田委員長	担当者会議でどのように話をされて、各自治体で、うちの担当課でどのようにそれを説明しているのか、取り組んでいるのかというものを協議、やっぱり聞いたほうがいいかなと。(「すぐにですか」の声あり) それをいつにしますか。
柳田委員	所管事務調査後でいいですよ。私たちも知識不足ですから。
平吹委員	正式に、やっぱり、そういうほかのほうも聞いてさ。
柳田委員	そのほうが。持ち込んだ上で、消化した上で。
平吹委員	だって町の議員は何もしませんなら、それで終わりだし。
柳田委員	いや、こんなものもある、あんなものもある、提案だってできないじゃないですか。
平吹委員	聞くことは必要だと思います。
福田委員長	橋本委員。
橋本委員	何であろうとも、私たちの頭で考えるだけでなく、この町の実情はどうあるか、それをどういうふうに行政が指導するか、その指導に不足があるとか町民の協力が薄いというのを、どうしたら町民の協力を得られるのか考える、それが委員会の考え方でしょ。 そのためには、27年にこういうものが出たというなら、当然、28年度に向かって、町はどういう対策を今取ろうとしているのか、そのことを含めて、どういうとらえ方をしているのか、そういうことを含めて聞かなかつたら、意見も言えないでしょ。
福田委員長	はい、柳田委員。
柳田委員	だから、聞くのは誰も必要ないと言っています。聞くのは必要ですけども、何かあるたびに職員を呼んで聞いて、職員の仕事の邪魔をするくらいだったら、ある程度、こちらちゃんと知識をためて消化したあとに、その情報を持った上で、また職員の話聞いたほうがいいと思いますと言っているんです。
福田委員長	はい、橋本委員。
橋本委員	私が言っているのは、大崎の担当者会議でどういう話が出て、今後どうするかということを聞くべきでないかと言ったんであって、柳田君が言っているのは、まるっきり違うんでないですか。
柳田委員	何ですか。
橋本委員	そういう会議で何も問題になってなかったと言うならもちろん、担当者に聞いているだけです。ただ大崎行政のこういうような担当者の皆さんが考えてください、あるいは出たら当然、担当課がこういうふうに我が町のがふえているんだから、何とかしましようと思えることは担当者の仕事でしょ。そのくらいは、言われなくてもやるべきなの。

	<p>そういうことなので、今、柳田君が言ったことはあまりも職員のことを温存しているようで、いいことはいいけれども、甘やかすという結果はできません。</p>
柳田委員	<p>甘やかしてはいけません。</p>
福田委員長	<p>担当者会議でどういう話をされて、それを受けて町がどう取り組みされたのかは、やっぱり聞く必要があると思います。その時期を所管事務調査後がいいという話もありましたので、また私たちが先進地に行って、取り組み状況かなり違うと思うのでね、その辺も私たちが学んでから聞いたほうがいいかなと思うので、所管事務調査後でよろしいでしょうか。 (「はい」の声あり) じゃ、そのようにしたいと思います。 今日の大崎リサイクルセンターについて、ほかにありませんか。 先ほど、大崎がリサイクル率を25%という話は、多分、県全体が25.6%なので。</p>
大橋委員	<p>26と言った。</p>
福田委員長	<p>26と言った。</p>
大橋委員	<p>目標が26。</p>
福田委員長	<p>25と言ったような気がするんだけど。県全体が25.6%。推測でしかないんだけど。 リサイクルセンターの視察について、ほかにありませんか。 無いようですので、リサイクルセンターの視察についてのまとめは以上といたします。 次、所管事務調査についてですけれども、それで7月13日出発で、7月15日まで3日間、所管事務調査をおこないます。7月14日は本別町、人口が7364人で全国でリサイクル率が第4位、66.2%です。それから岩見沢市、8万4316人で全国で第9位、56.3%です。このリサイクル率もかなり高いということで、この2カ所を前回の会議の話し合いに沿って選ばせていただいて調整を取りました。その結果、本別町と岩見沢市については、受け入れを快く引き受けていただいたということでございます。7月13日が出発日で、移動日ですね。それで切符も買わなくちゃならないので、あらためて参加できるかどうかをお聞きしたいと思いますので。</p>
橋本委員	<p>私は行かない。(「何で」の声あり) 仙台に行く。</p>
福田委員長	<p>橋本委員は行かない。</p>
橋本委員	<p>そこまで行って調べるとなるなら、仙台のほうがなんか良く知っているから、そのほうが見るなら行ったほうがいい。色麻町でもいいし。北海道まで行かない。</p>
福田委員長	<p>ということです。橋本委員は行かないということで欠席になります。</p>
大橋委員	<p>常任委員会でこういう調査をやろうということに対して、行かないとい</p>

	うことですね。
橋本委員	行かなくても分かる。 (「そんなことではない」「そんな問題じゃない」の声あり)
福田委員長	以上、所管事務調査について終わりたいと思います。 そのほか皆さんからありましたら。 無いようですので、副委員長にあいさつをお願いいたします。
吉田副委員長	今日は午前中に、中央クリーンセンター視察を見て、午後から取りまとめということで、本当に大変ご苦労さまでございました。 今日のように朝晩と日中の温度差が大変大きくなっても、またふえてくるかと思えますけれども、ぜひ皆さん、健康管理に十分注意して、私たち、ごみ減量化に向けて頑張ってくださいと思います。 本日は誠にご苦労さんでございました。
福田委員長	済みません、前後になって。6月ですね、所管事務調査についての話を常任委員会を持ちたいんですけれども、日にちですけれども。
柳田委員	議会終了後でいいんじゃないですか。
福田委員長	議会終了後。
柳田委員	最終日の終了後。
福田委員長	最終日の終了後。
平吹委員	16日か。
福田委員長	何時に終るか、分からないので。
柳田委員	17日になんか救命の。
福田委員長	運営小員会だ。30分くらいでまとめて。
柳田委員	救急救命が10時だから、その前にやったらどうですか。
福田委員長	じゃあ、17日は9時からでいいですか。6月17日の9時から所管事務調査についての打ち合わせ、常任委員会の会議を開きたいと思いますのでご参加をお願いいたします。 はい、では終わります。ご苦労さまでした。
	閉会 午後2時25分

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成28年5月23日

教育、民生常任委員会

委員長 _____